



The Japan Association for Language Education and Technology

外国語教育メディア学会

NEWSLETTER No. 104

March 2026

発行 外国語教育メディア学会 (LET) (会長：森田 彰)

事務局 〒310-8585 水戸市見和1-430-1  
常磐大学人間科学部 千葉敦研究室内

HP <http://www.j-let.org/>

## 巻頭言

### 新しい LET

会長 森田 彰 (早稲田大学)

大阪万博の影響により 11 月に行われた関西支部ホストの第 64 回年次研究大会 (LET64) も成功裏に終了しました。名部井支部長を筆頭とする関係者の皆様のご努力に改めて感謝いたします。

私、そして千葉敦事務局長の体制で本部をお預かりした 2020 年からの 6 年間も社会では様々なことが起こりました。特に 2020 年に始まった新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、全世界の人々に及び、振り返れば、それは不安定化する世界を象徴するような出来事でした。私たちは、教育を受け、授けるという日常が如何に脆いものか、ということを感じました。日本では、その状況が改善されてきてはいますが、目を世界に転じると、別の理由でそうした日常を奪われている人々が多くいることも確かです。

また、私たちは、「昨日の日常が今日の日常ではなく、今日の日常が明日の日常ではない」ことも知りつつあります。今、私たちは AI という、とてつもないテクノロジーが、私たちの日常の姿を刻々と変えて行くのを目の当たりにしています。しかし、(現在の) 生成 AI が膨大な過去のデータに基づいている、と聞くと、それは、不断に更新される過去からの挑戦のようにも思えます。物事が本当に変わっているのか、いないのか。私には、よく判りません。

しかし、言語も不断に変化します。モルドヴァに生まれた言語学者コセリウ (Coseriu) は、変化すること自体が言語の本質であると言いました。言語は人々の思考の在り方と共に変化するもの、更に言えば、ヒトが変化し、言語はそれを使うヒトが求めるままに変化し続けるものなのでしょう。つまり、ヒトがヒトの未来を創る、不断に更新される過去を創るのは、ヒトなのです。私たち、ヒトと言語に向き合う者は、このことをしっかりと意識して教育・研究に当たりたいものだ、と思います。

さて、私の LET の会長としての任期は、この 2026 年 3 月をもって終了します。



#### 目次

巻頭言 .....	1
年次研究大会を終えて .....	3
2025 年度外国語教育メディア学会学会賞受賞者寄稿 .....	5
第 64 回 (2025 年度) 年次研究大会報告 .....	8
2025 年度本部事業報告・決算報告 .....	15
2026 年度本部事業計画・予算 .....	18

会員の皆さんのお力添えで、どうにかこの日を迎えることができました。有難うございました。菅井康祐  
新会長のもと、会員の皆さんが、新しい LET の、新しい未来を創ってくださることを、私は確信してい  
ます。

## 第 64 回年次研究大会 (LET64) を終えて

大会実行委員長 名部井 敏代 (関西大学)

去る 2025 年 11 月 22 日・23 日の両日、秋の紅葉が美しい季節に、外国語教育メディア学会 (LET) 第 64 回年次研究大会 (The 64th Annual Conference of the Japan Association for Language Education & Technology, 2025) が開催されました。例年と異なり、学期期間の週末 2 日間での開催日程であったにもかかわらず、300 名を超える方々にご参加いただきました。実際に大阪の会場にお越しいただき活発な意見交換・情報共有をしてくださった皆様、そしてそれぞれの場所から遠隔でご参加くださった方々に、心から感謝申し上げます。

今回は「言語教育とテクノロジーの新しい波を乗りこなす」という大会テーマのもと、基調講演 1 つ、シンポジウム 2 つ、招待セミナー 2 つ、ワークショップ「iPad Café」とランチョンセミナーのそれぞれ 1 つを企画プログラムとして準備いたしました。“テクノロジーの波を乗りこなす”という点で、大前智美先生と岩居弘樹先生 (いずれも大阪大学) による iPad Café が、ICT を活用した授業実践のヒントを参加者の皆さんと共有するワークショップとして好評でした。“言語教育の新しい波”という点では、「教室評価におけるスピーキングテスト」(招待セミナー 1: 小泉利恵先生・筑波大学)、「音声指導と評価」(シンポジウム 1: 大和知史先生・関西大学 他 3 名)、「概念型アプローチ」(招待セミナー 2: 溝端保之先生・桃山学院大学 他) や「エンゲージメント」(シンポジウム 2: 西田理恵子先生・大阪大学 他 3 名) がそれぞれ “新しい波” の形や予兆を、ときに具体的に、または実践的に提示し、参加者による考察や議論を促す契機となりました。大会を締めくくった鈴木祐一先生 (早稲田大学) による基調講演は、こうした “新しい波” に乗る礎となる知見と、“波を乗りこなす” ためのヒントを与えてくれるお話でした。「指導と第二言語習得の研究」からの知見は礎、そして研究と実践の間に横たわる溝について考察し、それを乗り越える方向性を見つける方策を知ることができ、大変示唆に富んでいました。

会員による発表は、研究・実践発表が 44 件、ポスター発表が 9 件ありました。AI と外国語教育に関わるテーマを扱ったものが多く見られたのは、時勢の反映ともいえますが、本来テクノロジーを扱う本学会の本領発揮というところでしょう。一方で、本学会会員の研究テーマの多様性も存分にあらわれて、動機づけ研究や CLIL 研究、認知言語学研究に関わる研究などの成果発表もありました。ときには会場に予備の椅子を運び込むほどの聴衆を集める発表もありました。会場ホール中央に設置されたポスター発表スペースでは、コア・タイムにそれぞれのボード前で熱心に質疑応答が展開する様子も見られました。多彩な研究の成果発表が行われ、参加者同士の熱心な意見交換が行われたことは、大変意義深いことでした。

例年、8 月に行われる年次大会ですが、今年は 4 月から 10 月まで開催されていた大阪・関西万博 (EXPO 2025) を避ける日程で企画することになり、会場も関西大学 100 周年記念会館という多目的施設の 1 フロアというコンパクトなものになりました。少し狭いかなと心配しましたが、実際に人と人々が交わって語り合える場としては、むしろ効果的だったと振り返っております。今回は展示ブースを出してくださる賛助会員が 26 社もあり、それぞれで大会参加者と意見交換・名刺交換が行われていました。また、第 1 日目の発表の部終了後は、会場施設の中央ロビーで 200 名近い参加者との懇親会が開催され、ここでも食べ物・飲み物を囲みながら、参加者同士の談笑が盛況でした。

異例づくしの本大会は、関西支部 LET64 大会事務局長 水本篤先生を中心とする大会実行委員会メンバーの創意・工夫で実現しました。本大会を成功に導いた LET64 大会実行委員会の皆様に、大会実行委員長として深く感謝申し上げます。

最後に、大会テーマにもあった“新しい波”はさまざまにあり、私たちはいつもいろいろな変化に直面し、対応し、より良き方向に変化をしようと努力しているのだと思います。教育現場にあって然り、学会活動にあって然りです。LETは、今後も教育関係者、実践者、そして研究者の教育実践と理論構築を目指した研究活動を支え、その知見を交換・共有する場であることを目指します。より有効にまた効率的に学会運営が行えるよう、不断の工夫と努力もしていきます。どうぞ今後とも LET へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 2025 年度外国語教育メディア学会学会賞受賞者寄稿

対象業績（学術賞）：日本人英語学習者を対象とした動機づけと情意要因に関する研究

受賞者：西田 理恵子（LET 関西支部、大阪大学）

対象業績（論文賞）：Comparing Gap-Filling and Multiple-Choice Gloss Based on the Involvement Load Hypothesis: A Bayesian Estimation of Homogeneity (Language Education & Technology, 61, 2024. 掲載論文)

受賞者：小室 竜也（LET 関東支部、東北大学）

### 学術賞を受賞して

西田 理恵子（LET 関西支部、大阪大学）

この度は、外国語教育メディア学会学術賞を賜り、大変光栄に存じます。このような栄誉ある賞を拝受いたしましたことに、心より感謝申し上げます。まず、私をご推薦くださいました運営委員会の先生方に、心より御礼申し上げます。また賞状の授与をしてくださった森田彰会長にも心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。私の恩師であり、指導教官でもあられる 関西大学名誉教授の八島智子先生には、博士論文執筆の折より今日に至るまで多大なるご指導とご鞭撻を賜りました。この場をお借りして、心より深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

本学術賞の対象業績となりました「日本人英語学習者を対象とした動機づけと情意要因に関する研究」は、関西大学大学院外国語教育学研究科における博士後期課程在籍時からの研究成果の積み重ねを対象としていただいたものです。博士論文では、小学校英語教育における動機づけおよび情意要因に関する実証研究に取り組みました。その後、大阪大学大学院人文学研究科（旧・言語文化研究科）に勤務して以降は、研究対象を中学生・高校生・大学生、さらには現場の先生方へと広げ、継続的に実証研究を重ねてまいりました。対象業績の一つに、『動機づけ研究に基づく英語指導』（大修館書店、2022 年）がございます。本書は、英語学習動機づけに関する理論・研究・教育実践を融合させた一冊です。本書はまた、私が研究活動と教育実践に取り組む中で、研究と教育を有機的に結びつけ、外国語（英語）を学ぶ学習者の皆さんがより楽しく、かつ効率的に学習できることを目指して、日々考え続けてきた成果の一つです。

2007 年に博士後期課程に入学して以来、20 年近くにわたり動機づけ研究に向き合ってきたこととなります。これまでの研究人生を振り返りますと、多大なるご指導を賜りました恩師の先生方をはじめ、日々支えてくださる同僚の先生方、志を同じくする研究者の先生方、学生の皆さん、ゼミ生の皆さん、友人、知人、そして家族といった多くの方々にも恵まれてきたことを、改めて深く実感しております。これからの教員人生につきましても、自身の研究と教育を一層深化させるとともに、次世代を担う若手研究者の育成や教員指導に微力ながら尽力してまいりたい所存です。

本学会は、外国語教育の発展に寄与することを目的とした学会です。新しい時代を切り拓くためには、研究と教育を通して前進していく力が求められています。そのような中、動機づけの研究と教育を通して私にできることは微力ではございますが、本賞の受賞が、未来を切り拓く若手研究者の先生方や学生の皆

様にとって、今後さらに前進されるうえでのささやかな励みとなれば幸いに存じます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



### 関西大学での授賞式にて

### 論文賞を受賞して

小室 竜也 (LET 関東支部、東北大学)

この度は、名誉ある LET 論文賞を賜り、身に余る光栄に存じます。本論文の査読をご担当賜りました先生方、機関誌編集委員会の先生方、ならびに本論文をご推薦くださいました先生方に、厚く御礼申し上げます。

本賞の受賞は、貴重なご指導・ご助言を賜りました卯城祐司先生、土方裕子先生、柳沢明文先生のお力添えの賜物です。また、多くの皆様から温かいご支援と励ましを頂戴いたしました。ここに改めて、深く感謝申し上げます。

本論文は、付随的語彙学習に関する理論的および統計的検討を行ったものです。ライティングやリーディング等の言語活動を通して語彙を付随的に学習する過程において、Involvement Load Hypothesis (ILH; Laufer & Hulstijn, 2001) は学習成果を予測する理論的枠組みとして広く検討されてきました。提唱以来 20 余年を経て、多数の実証研究が蓄積されてきました。Yanagisawa and Webb (2022) は、それらの研究で報告された効果量をメタ分析により統合し、ILH Plus という新たな枠組みを提示しました。本研究では、このメタ分析に基づく効果量を事前分布として組み込んだベイズ推定を行い、単なる帰無仮説の棄却にとどまらず、条件間の等価性の検証という観点から理論的妥当性を再検討いたしました。

本賞を受賞した当時、私は日本学術振興会特別研究員 PD としてポスドク 1 年目を迎え、心理言語学や神経言語学といった新たな研究分野の開拓を模索しておりました。博士課程在学中には、PsychoPy や jsPsych による反応時間測定、MATLAB を用いた脳画像データ解析などを扱った経験がなく、戸惑うことも少なくありませんでした。しかし、このたび論文賞のご連絡をいただき、これまで取り組んできた研究を高く評価していただけたことに、大きな励ましと誇りを感じました。本賞の受賞は、今後の研究活動に向けた大きな原動力となっております。

これを機に、外国語語彙学習に関わる認知的側面について、より多角的かつ発展的に研究を進めていく所存です。最後に、本学会の運営にご尽力くださいましたすべての関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。



関西大学での授賞式にて

## 第 64 回（2025 年度）年次研究大会報告

外国語教育メディア学会（LET）第 64 回（2025）年次研究大会は、2025 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）の 2 日間に渡り、関西大学千里山キャンパス 100 周年記念会館（大阪府吹田市）にて開催されました。

### 【開催概要】

開催日：2025 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）  
会場：関西大学千里山キャンパス 100 周年記念会館  
（大阪府吹田市山手町 3 丁目 3-35）

参加者数：360 名  
主催：外国語教育メディア学会（LET）  
会長：森田 彰（早稲田大学）  
大会実行委員長：名部井 敏代（関西大学）  
実施内容：下記の通り

大会参加者数：一般会員 168 (Zoom 15); 学生会員 19 (Zoom 3); 賛助会員 67  
一般非会員 57 (Zoom 8); 学生非会員 22 (Zoom 2)  
合計 360 (Zoom 28)

賛助会員出展：26 件  
懇親会参加者：一般 98, 学生 18, ゲスト 25 賛助会員 35

プログラム：

#### 基調講演 1 件

「ISLA 研究が変える外国語教育：理論と実践の新たな架け橋」鈴木 祐一（早稲田大学）

#### 招待セミナー 3 件

1) 「教室内評価におけるスピーキングテスト—作成・実施・採点・フィードバックの観点から—」

小泉利恵（筑波大学）

2) 「概念型アプローチで英語授業づくり」溝畑保之（桃山学院大学）/ 須藤真羽（関西学院大学教育学部）/ 今井麻紀（東京学芸大学附属世田谷小学校）/ 岩田慶子（神戸市立星陵台中学校）/ 周藤かおる（堺市立鳳中学校）/ 坂上 渉（京都府亀岡市立亀岡川東学園）/ 秋山容洋（姫路市立家島中学校）/ 長尾拓実（大阪府立芦間高等学校）/ 福島伸典（大阪府立門真なみはや高等学校）/ 山本英樹（奈良県立奈良高等学校）

3) 「iPad Café」大前智美（大阪大学）/ 岩居弘樹（大阪大学）

#### シンポジウム 2 件

1) 「教員のための音声指導と評価」内田 洋子（青山学院大学）/ 杉本 淳子（聖心女子大学）/ 常

本 亜希（東北大学） / 大和 知史（関西大学）

2) 「エンゲージメントとテクノロジーの接点」西田 理恵子（大阪大学） / 廣森 友人（明治大学）

/ 青山 拓実（明治大学） / 天野 修一（広島大学）

**ランチョンセミナー**          1 件

“Reconsidering Feedback in Japanese EFL Classrooms: Cognitive, Affective, and Professional Dimensions”  
Rintaro Sato (Nara University of Education)/ Kiwamu Kasahara (Hokkaido University of Education)/  
James Hall (Iwate University)/ Katsuyuki Konno (Ryukoku University)

研究発表・実践報告          44 件

ポスター発表                  9 件

以下、プログラムのタイトルを記します。各プログラムの概要は、以下の URL の要項集を参照ください。  
[https://www.j-let.org/let2025/wp/wp-content/uploads/2025/11/LET64\\_ConferenceHandbook.pdf](https://www.j-let.org/let2025/wp/wp-content/uploads/2025/11/LET64_ConferenceHandbook.pdf)

11月22日(土): 第1日

### 開会行事

会長挨拶: 森田 彰 (早稲田大学)

実行委員長挨拶: 名部井 敏代 (関西大学)

### 招待セミナー1

#### Room 1

「教室内評価におけるスピーキングテスト—作成・実施・採点・フィードバックの観点から—」

小泉利恵 (筑波大学)

### 企画セミナー

#### Room 2

「iPad Café」

大前智美 (大阪大学)

岩居弘樹 (大阪大学)

### 研究発表・実践報告

#### Room 1

第二言語学習における自己調整学習研究の動向と今後の展望

上野 将太郎 (関西大学大学院)

新原 由希恵 (大阪大学)

竹内 理 (関西大学)

口頭訂正フィードバック選好の大規模実証研究—日本語を母語とする中学生457名を対象とした学年横断的分析—

山下 友大 (岡山大学)

阿部 真理子 (岡山大学)

#### Room 2

生成 AI と学習者オートノミーの関連性に関する探索的検討: 工学系大学生の学習実態から

リ オリガ (富山県立大学)

工学部学生を対象とした音声・AI技術を用いたオンデマンド集中トレーニングの効果と分析

峯松 信明 (東京大学)

生成 AI を活用した英語スピーチの自動評価の試み

山内 豊 (創価大学)

峯松 信明 (東京大学)

統語的複雑性と統語的類似性について

近藤 悠介 (早稲田大学)

英語発信力育成に向けた入学前教育の試み—薬学部新入生への AI 学習アプリ「レンピー」の活用事例—

後藤 秀貴 (立命館大学)

近藤 雪絵 (立命館大学)

山本 修久 (株式会社ポリグロッツ)

#### Room 3

University Students' Perceptions of English Pronunciation Corrective Feedback Provided by AI: A Comparison of Feedback from Two Different AIs

Molnar, John Andras (Kinjo Gakuin University)

高校生の第二言語スピーキング能力の変化に関する縦断的研究

阿部 真理子 (岡山大学)

生成 AI による英会話特化型ロールプレイ教材の設計と自己調整学習の枠組みに基づく展開可能性

山田 優 (立教大学)

大学授業における TOEIC®L&R 対策コースのテストスコアへの影響：観測データによる因果分析

古屋 あい子（東洋大学）

隅田 和人（東洋大学）

The Advancement of English Education in Japan with Generative AI: Insights from Students' Perspective

Lee Saeun（Prefectural University of Kumamoto）

Eronen Juuso（Prefectural University of Kumamoto）

#### Room 4

小学校外国語科における主体的な学びの可能性－問題解決・探究を支える情報活用能力の育成

高橋美由紀（愛知教育大学）

小学校外国語科における ChatGPT を用いた指導者・学習者用端末向け教材の作成

岡本 真砂夫（姫路市立高浜小学校）

日本人大学生のオンライン英語学習における先延ばし行動と心理的特性

小野 雄一（筑波大学）

リーディング中心の中学校英語授業における構造・オートノミー支援行動

宮迫 靖静（福岡教育大学）

Metacognitive Awareness and L2 Reading Proficiency: A Conceptual Replication of the Awareness-Effort – Performance Model

Mikami Hiroshi（Chubu University）

#### Room 5

個別最適・協働的な学びの授業デザイン－中学2年生におけるプロジェクト型学習「海外スターへの手紙」の実践－

山田尚平（富山短期大学）

工学部生のグローバルマインドセットを育成するためのオンライン国際交流の可能性

植田 正暢（北九州市立大学）

4つのストランドを通じたアニメの視聴

金山 幸平（北海道教育大学）

メタバースを活用した国際協働学習：実践と評価

安部 由美子（広島工業大学）

Elwood James（Meijo University）

Lessons Learned From 20 Years of Carrying Out a Teaching Practicum in Thailand

Hall James（Iwate University）

Nakatani Hiroko（Iwate University）

#### 企画セミナー ランチョンセミナー

---

Reconsidering Feedback in Japanese EFL Classrooms: Cognitive, Affective, and Professional Dimensions

Sato Rintaro (Nara University of Education)

Kasahara Kiwamu (Hokkaido University of Education)

Hall James M (Iwate University)

Konno Katsuyuki (Ryukoku University)

#### ポスター発表

---

国際間オンライン交流協働授業(VE)における教師の役割を考える－日韓における高校間の交流を中心に－

呉 恵卿（国際基督教大学）

Timed Reading におけるバランスの取れたリーディング力の促進

西川 純恵（日本医科大学）

大学生の英語習熟度が学習エンゲージメントに及ぼす影響

長岡 穂 (西武文理大学)  
土屋 進一 (西武文理大学)

生成AIによるフィードバックを取り入れたCALL  
英語授業の実践

与那覇 信恵 (千葉大学)  
齋藤 新之介 (千葉大学)

## シンポジウム

---

### Room 1

「教員のための音声指導と評価」

内田 洋子 (青山学院大学)  
杉本 淳子 (聖心女子大学)  
常本 亜希 (東北大学)  
大和知史 (関西大学)

## 第1日目閉会行事

---

学会賞授賞式

## 11月23日(日): 第2日

---

## シンポジウム2

---

エンゲージメントとテクノロジーの接点

西田 理恵子 (大阪大学)  
廣森 友人 (明治大学)  
青山 拓実 (明治大学)  
天野 修一 (広島大学)

## 研究発表・実践報告

---

### Room 1

学習者自身がAIを使って英語を学ぶ、新時代ライティング&スピーキングテキストについて

金丸 敏幸 (京都大学)  
吉塚 弘 (株式会社成美堂)

“新しい4技能”はどう創発するのか—プロジェクト型英語教育受講生インタビュー調査から—

木村 修平 (立命館大学)

### Room 2

生成AIによるフィードバック機能を実装した日本語学習者作文評価システム「jWriter」

長谷部 陽一郎 (同志社大学)  
李 在鎬 (同志社大学)

頭韻を踏むコロケーション学習における音読の効果と最適な繰り返し回数の検証

山形 悟史 (岡山大学)  
阿部 真理子 (岡山大学)

オープンソースLLMを利用したローカル型AI英作文添削支援ツールの開発

後藤 一章 (摂南大学)

クラスサイズと目的に合わせた英作文への生成AI活用

真島 由朱 (大阪府立桜塚高等学校)

「改訂版文法項目一覧表」による中学校リーディングテキストの文法分析

高橋 昌由 (大阪成蹊大学)  
岡本 清美 (大阪大学)

**Room 3**

生成 AI の統合的活用プラットフォーム「Poe」の有用性について

東 淳一 (Society for Advanced Global Education, LLC)

学習者視点から理解する辞書アプリを用いた語義検索行動

名部井 敏代 (関西大学)

小山 敏子 (関西大学)

AI を活用した児童の自力読みのための Decodable Books 作成: 教員支援の視点から

中田 葉月 (甲南女子大学)

谷野 圭亮 (大阪公立大学工業高等専門学校)

Ditto: Implementation and Application of an AI-Enhanced Platform for Pronunciation Research and Assessment

Carlo Michele (Kansai University)

リズムと連結の指導による発音効果の検証

有本 純 (関西国際大学)

河内山 真理 (関西国際大学)

**Room 4**

A Tale of Two Curiosities: Divergent and Specific Epistemic Curiosity in EFL Learners

Kanazawa Yu (The University of Osaka)

動機づけ方略使用の質に影響を与える要因について: 特定の EFL 環境における質的分析からのアプローチ

川光 大介 (大阪公立大学工業高等専門学校)

竹内 理 (関西大学)

高校英語学習者における 1 学期間のエンゲージメント, 非エンゲージメント, 内発的動機づけに関する実証研究

綱澤 えり子 (大阪大学大学院)

第二言語習得研究における明示的・暗示的知識の再検討: この分類は何に役立つか, 何に役立たないか

田村 祐 (関西大学)

福田 純也 (関西大学)

ハイブリッド環境下でのグループワークにおける共同注視と相互行為

福島 祥行 (大阪公立大学)

**Room 5**

Explore Individual Differences in AI-Assisted and Corpus-Based Data-Driven Learning: Insights into Learners' Perceptions and Language Learning Outcomes

Sun Amelie (Kansai University)

Mizumoto Atsushi (Kansai University)

CLIL 的アプローチにおける多様な背景をもつ学習者の将来像の第二言語表現—留学生クラスのキャリア授業を事例として—

尹 惠彦 (大阪経済法科大学)

西村 英希 (近畿大学)

Suggestions for the Dynamic Mentor-Mentee Learning Approach in English Lessons

Izumitani Tadashi (Kindai University High School)

Nakanishi Yosuke (Kindai University High School)

Intercultural Exchange in Language Education: A Review of Recent Studies and a Path Forward

Alizadeh Mehrasa (Otemon Gakuin University)

ポスタープレゼンテーション実践 ～反復とセリフフレクションを通じた英語力と人間性の成長に向けて～

上本 善之（兵庫県立宝塚西高等学校）

## 招待セミナー2

---

概念型アプローチで英語授業づくり：中高の教科書で考える授業

代表：溝畑 保之（桃山学院大学）

ナビゲーター：須藤 真羽（関西学院大学教育学部）

今井 麻紀（東京学芸大学附属世田谷小学校）

岩田 慶子（神戸市立星陵台中学校）

周藤 かおる（堺市立鳳中学校）

坂上 渉（京都府亀岡市立亀岡川東学園）

秋山 容洋（姫路市立家島中学校）

長尾 拓実（大阪府立芦間高等学校）

福島 伸典（大阪府立門真なみはや高等学校）

山本 英樹（奈良県立奈良高等学校）

## ポスター発表

---

「ガクチカ×行動面接(STAR)」—生成 AI とロールプレイを通じたスピーチ実践

佐藤 真奈美（京都先端科学大学）

アニメでつなぐ「ことば」と「文化」：文化語彙習得のためのマルチモーダル・アプローチの効果検証

松井 夏津紀（京都先端科学大学）

AI・機械翻訳時代の英文法：適切な活用へ向けた教育的考察

松田 佑治（名古屋学院大学）

金継ぎで繋ぐ日本文化理解：タイでの実践報告とSNSを利用した発信型アウトプットの提案実践

森岡 千廣（関西大学大学院）

日本語にない英語の音素習得トレーニング教材の開発：恐竜の名前を使った児童向けコンピュータ教材の試作

大橋 景子（名古屋大学大学院）

杉浦 正利（名古屋大学）

## 招待講演

---

ISLA 研究が変える外国語教育：理論と実践の新たな架け橋

鈴木 祐一（早稲田大学）

## 閉会行事

---

会長挨拶：森田 彰（早稲田大学）

実行委員長挨拶：名部井 敏代（関西大学）

次回開催支部挨拶：小野 雄一（筑波大学）

## 2024年度 本部 事業報告

### 1. 開催行事関連

#### 第63回（2024）年次研究大会

日程：2024年8月6日（火）～8日（木）

会場：名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり

大会テーマ：「令和の教育改革 —未来の外国語教育をデザインする—」

Educational Reform in the Reiwa era—Designing the Foreign Language Education of the Future

### 2. 総会

開催日：2024年8月7日（水）

開催場所：名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり

### 3. 出版・広報関係

- 1) 全国ホームページを利用した広報
- 2) 全国メーリングリストを利用した広報
- 3) LETblog の発行（毎月1回発行）
- 4) Newsletter No. 103 の発行（Web 上で2025年7月公開）

### 4. 運營業務関連

- 1) 支部長連絡会の開催：2024年8月6日（火） 名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり
- 2) 理事会の開催：2024年8月6日（火） 名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり
- 3) 会長・副会長会議の開催：2025年1月26日（日） 早稲田大学14号館404教室

### 5. 学会機関誌

- 1) Language Education & Technology 第61号 2024年10月1日 J-STAGE で公開
- 2) Language Education & Technology 第62号
  - ・ 投稿申し込み締切：2024年8月31日（土）
  - ・ 応募論文提出締切：2024年11月30日（土）
  - ・ 応募論文結果通知：2025年3月

### 6. 学会賞

2024年度学会賞選考委員会における受賞候補者の決定：2024年4月～6月  
2024年度学会賞受賞者の理事会承認：2024年6月6日（メール稟議）  
2024年度学会賞授賞式：2024年8月7日（水）第63回年次研究大会において  
2025年度学会賞候補者推薦締切：2025年3月末日

#### 学術賞

受賞者：柁木 貴之（北海学園大学）

対象業績：『国語教育と英語教育をつなぐ：「連携」の歴史、方法、実践』

論文賞

受賞者：佐々木 大和（帝京大学）

対象業績：The Contribution of Phonological and Prosodic Awareness to L2 Reading Comprehension among Japanese EFL Learners

7. その他

- 1) Scopus への登録申請
- 2) 賛助会員に対するバナー広告の無料開放

以上。

## 2024年度 外国語教育メディア学会本部 決算報告書

2025年7月30日

自2024年4月1日～至2025年3月31日

項目	予算額	決算額	内 訳
前年度繰越金	4,143,470	4,143,470	
賛助会費	1,300,000	1,350,000	50,000円 × 27件
一般会費	950,000	952,000	前年度各支部会費収入 × 0.15
雑収入	0	2,189	銀行利子
収益計(①)	2,250,000	2,304,189	
法人化準備積立金	92,400	92,400	
収入計(③)	2,342,400	2,396,589	

費 目	予算額	決算額	内 訳
印刷費	500,000	491,700	機関誌61号
通信費	30,000	2,280	レターパックライト370円×5、430×1
ネットワーク関係費	600,000	607,200	本部サーバー管理・保守費、会費免除表示仕様変更費
旅費交通費	250,000	181,338	会長・副会長会議交通費補助等
会議費	25,000	23,268	会長副会長会議弁当・お茶
全国研究大会開催費	500,000	159,500	LET63大会サイト構築費
事務費・業務委託費等	500,000	110,000	投稿規程・編集規程・倫理規程翻訳費
国際交流委員会費	20,000	0	
雑給	0	0	
事務用品費	50,000	36,445	不織布バッグ、表彰状作成等
支払手数料	5,000	3,680	
雑費	30,000	0	
全国研究大会準備金	2,000,000	2,000,000	2027年度から本部主催にするための準備金
費用計(②)	4,510,000	3,615,411	
法人化準備積立金	92,400	92,400	
支出計(④)	4,602,400	3,707,811	

当期利益 【収益(①)－費用(②)】	-2,260,000	△ 1,311,222	
次年度繰越金 【前年度繰越金＋当期利益】	1,883,470	2,832,248	
当期収支 【収入(③)－支出(④)】		-1,311,222	

以上、報告します。

外国語教育メディア学会本部事務局

事務局長 千葉 敦

以上、相違ありません。

2025年7月30日

会計監査

奥山慶洋 

会計監査

森好紳 

## 2025年度 本部 事業計画

### 1. 開催行事関連

#### 第64回(2025)年次研究大会

日程：2025年11月22日(土)～23日(日)

会場：関西大学千里山キャンパス100周年記念会館

大会テーマ：「言語教育とテクノロジーの新しい波を乗りこなす」

Surfing the New Big Wave in Language Education and Technology

### 2. 総会

開催日：2025年8月6日(水)

開催場所：オンライン開催

### 3. 出版・広報関係

- 1) 全国ホームページを利用した広報
- 2) 全国メーリングリストを利用した広報
- 3) LETblogの発行(毎月1回発行)
- 4) Newsletter No. 104の発行(Web上で2026年3月公開)

### 4. 運營業務関連

- 1) 支部長連絡会の開催：2025年8月3日(日) オンライン
- 2) 理事会の開催：2025年8月3日(日) オンライン
- 3) 会長・副会長会議の開催：2026年1月下旬

### 5. 学会機関誌

- 1) Language Education & Technology 第62号 2025年9月J-STAGEで公開
- 2) Language Education & Technology 第63号
  - ・投稿申し込み締切：2025年8月31日(日)
  - ・応募論文提出締切：2025年11月30日(日)
  - ・応募論文結果通知：2026年3月

### 7. 学会賞

2025年度学会賞選考委員会における受賞候補者の決定：2024年4月～6月

2025年度学会賞受賞者の理事会承認：2025年8月3日(日)

2025年度学会賞授賞式：2025年11月22日(土)または23日(日)第64回年次研究大会において

2025年度学会賞候補者推薦締切：2026年3月末日

### 8. その他

- 1) Scopusへの登録申請
- 2) 賛助会員に対するバナー広告の無料開放

以上。

## 2025 年度 外国語教育メディア学会本部 予算案

2025 年 8 月 3 日

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

項 目	予 算 額	内 訳
賛助会費	1,300,000	賛助会費 @50,000 × 26 件
一般会費	879,000	前年度各支部会費収入 × 0.15
雑収入	2,000	
法人化準備積立金解約金	92,400	
収益 計 (①)	2,273,400	
繰越金 (②)	2,832,248	
年次研究大会準備金(③)	2,000,000	
収益 計 (①+②+③=④)	7,105,648	

費 目	予 算 額	内 訳
印刷費	700,000	機関誌 62 号:642,840 円(データ編集費 ¥464,400、J-STAGE 登録 ¥60,000、抜刷作成 ¥60,000、消費税等 ¥58,440)
通信費	30,000	切手、レターパックなど
ネットワーク関係費	750,000	本部サーバー管理費・保守費、ドメイン維持料・受付フォーム作成費・受付処理業務費など
旅費交通費	250,000	会長・副会長会議旅費などの公務出張の交通費補助
会議費	30,000	会長・副会長会議他
年次研究大会開催費	500,000	年次研究大会参加申し込み機能修正等
事務費・業務委託費等	500,000	Scopus 登録に関わる業務委託費
国際交流委員会費	20,000	
雑給	0	
事務用品費	50,000	文具・用紙・トナー・学会賞賞状作成費など
支払手数料	5,000	振込手数料
雑費	30,000	
年次研究大会積立金	1,000,000	2027 年度から本部主催にするための積立金
費用 計 (④)	3,865,000	
次期繰越 (⑤)	1,240,648	
年次研究大会準備金(⑥)	2,000,000	
費用 計 (④+⑤+⑥)	7,105,648	

NEWSLETTER No. 104

発行日 2026年3月16日

発行所 外国語教育メディア学会 (LET)

会長 森田 彰